

都市再生整備計画 事後評価シート

二本松駅南地区

令和7年3月

福島県二本松市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福島県		市町村名	二本松市		地区名	二本松駅南地区			面積	10ha			
交付期間	令和2年度～令和6年度		事後評価実施時期	令和6年度		交付対象事業費	1703.6百万円	国費率	50.0%					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	【道路】二本松駅～向原上竹線のアクセス道路 【地域生活基盤施設】駅南広場内調整池、二本松駅南広場											
		提案事業	【事業活用調査】事後評価 【まちづくり活動推進事業】地元まちづくり協議会PR活動支援											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし				削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		提案事業	なし											
	新たに追加した事業	基幹事業	【道路】造成地内道路 【公園】造成地内公園 【下水道】二本松駅～向原上竹線のアクセス道路、造成地内道路 【地域生活基盤施設】造成地内調整池				計画の見直しを行い事業を追加				影響なし			
		提案事業	【事業活用調査】立地適正化計画推進事業				計画の見直しを行い事業を追加				影響なし			
	交付期間の変更	当初	令和2年～令和6年		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		—							
		変更	なし											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期	
	指標1	二本松駅南地区の利用状況	%	28.40%	R1	39.80%	R6	—	23.50%	×	あり なし	●	利用のメインとなるアクセス道路や駅南広場の整備が完了していないことから効果が発現しなかったと考えられる。	
	指標2	安全性に対する満足度	%	41.20%	R1	54.20%	R6	—	47.10%	△	あり なし	●	造成内道路が整備され、狭隘な道路が減少したこと等により、従前値の数値よりも上がっているため効果が発現している。	
	指標3	二本松駅南地区イベント数	回/年	0回	R1	3回	R6	—	3回	○	あり なし		まちづくり団体等が南北の地区で連携しながら開催場所を工夫してイベントに利用しており、従前値よりも評価値が上がっている。	
	指標4										あり なし			
	指標5										あり なし			
	3)その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1		周辺地区内で新たに住宅を着工した数	軒/年	18軒	R1			35軒				地区内道路や駅前広場等の整備への期待感から効果が発現している。		
その他の数値指標2														
その他の数値指標3														
4)定性的な効果発現状況														
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング		—				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				—			
	官民連携による取組		駅南・下成田まちづくり協議会の活動支援				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も継続的な支援を行い、にぎわい創出に向けた連携を進める。			
	持続的なまちづくり体制の構築		駅南・下成田まちづくり協議会を組織展開				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● にぎわい創出に向け、持続的なまちづくり体制の支援を行う。			

様式2-2 地区の概要

[illegible]

今後のまちづくり の方策 (改善策を含む)	【南北連携による住民・駅利用者のさらなる利便性の向上】 ・駅前広場を整備し、駅への送迎車による地区内道路の混雑解消を目指す。 ・南地区へアクセスする幹線道路を整備し、歩行者や車の通行の安全性を高め、利便性を向上させる。 ・誰もが利用できる自由通路を整備し、南北地区の交流の活性化を促進する。 【魅力的な生活環境の形成による賑わいの創設】 ・地区内の狭隘な道路を解消することで、地域住民の生活環境を向上させる。 ・駅前広場や公園、住宅地の一体的な整備を行い、地区内外の交流やにぎわいを促す。 【災害時等の安全性の確保】 ・防災、防犯として活用できる駅前広場や公園を整備するとともに、広場内調整池を整備することで、地区内の安全性を高める。
--------------------------------------	--

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3－① モニタリングの実施状況
- 添付様式3－② 官民連携による取組みの実施状況
- 添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

- 添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5－① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5－② まちの課題の変化
- 添付様式5－③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

福島県二本松市	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	二本松駅～向原上竹線のアクセス道路	577.0	L=300m	552.6	L=366m	計画の見直しを行い整備面積増、事業費減	影響なし		
	自由通路 跨線橋					計画の見直しを実施	影響なし		
	造成地内道路			166.0	L=519m	計画の見直しを行い計画を追加	影響なし	●	
公園	造成地内公園			27.0	A=1,000m2	計画の見直しを行い計画を追加	影響なし		●
下水道	二本松駅～向原上竹線のアクセス道路			53.2	L=34m・MP N=1.0 基	計画の見直しを行い計画を追加	影響なし		
	造成地内道路			12.5	L=112m	計画の見直しを行い計画を追加	影響なし	●	
地域生活 基盤施設	駅南広場内調整池	146.0	A=1,600m2	0.0	A=1,600m2		影響なし		
	造成地内調整池			81.5	A=1,000m2	計画の見直しを行い計画を追加	影響なし	●	
	二本松駅南広場	876.0	A=3,900m2	784.2	A=5,500m2	計画の見直しを行い整備面積、事業費増	影響なし		

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
事業活用調査	事後評価	6.0		6.0			影響なし	●	
	立地適正化計画推進事業			20.0	21,828ha	計画の見直しを行い計画を追加	影響なし	●	
まちづくり活動 推進事業	地元まちづくり協議会PR活動支援	1	一式	0.6	一式	計画の見直しを行い事業費減	影響なし	●	
事業活用調査									
まちづくり 活動推進事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
		中央跨線橋線(自由通路)		L=79.7m	R4～R6	R3～R6	JR東日本と協議中 2期計画で整備予定	
上水道事業		二本松駅～向原上竹線のアクセス道路		L=560.0m		R2～R6	一部区間(L=50m)整備完了 残区間は地権者の移転完了 後2期計画で整備予定	
上水道事業		造成内道路		L=519.0m		R2～R6	整備完了	
下水道事業		二本松駅～向原上竹線のアクセス道路		L=123.0m		R2～R6	一部区間(L=120m)整備完了 残区間は地権者の移転完了 後2期計画で整備予定	
下水道事業		造成内道路		L=420.5m		R2～R4	整備完了	

添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
															あり	なし
福島県二本 松市	二本松駅南地区の利用 状況	%	二本松駅南地区側を利用する 可能性のある地区にお住まいの 方に対するアンケート調査で「回 答者の二本松駅南地区の利用 状況」について、「いつも利用す る」もしくは「たまに利用する」と 回答した方の割合	—	—	28.40	R1	39.80	R6	モニタリング	—	—	モニタリング	—		○
										事後評価	確定 見込み	●	23.50	事後評価	×	
指標2	安全性に対する満足度	%	二本松駅南地区側を利用する 可能性のある地区にお住まい の方に対するアンケート調査 で、「二本松駅南地区の安全性 に対する満足度」について、「満 足」もしくは「やや満足」、「普通」 と回答した方の割合	—	—	41.20	R11	54.20	R6	モニタリング	—	—	モニタリング	—		○
										事後評価	確定 見込み	●	47.10	事後評価	△	
指標3	二本松駅南地区イベント 数	回/年	二本松駅南地区で行われるイ ベント開催の回数	—	—	0	R1	3	R6	モニタリング		—	モニタリング	—		
										事後評価	確定 見込み	●	3	事後評価	○	

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	利用のメインとなるアクセス道路や駅南広場の整備が完了していないことから効果が発現しなかったと考えられる。	整備が進み地区内の狭隘な道路は減少しつつあるが、アンケート調査時は工事期間中での交通規制もあり、利用者に不便をきたしている中での調査であったことから、効果が発現しにくい状況だった。
指標2	造成内道路が整備され、狭隘な道路が減少したこと等により、従前値の数値よりも上がっているため効果が発現している。	
指標3	まちづくり団体等が南北の地区で連携しながら開催場所を工夫してイベントに利用しており、従前値よりも評価値が上がっている。	
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。
※2 目標達成度の記入方法
○ : 評価値が目標値を上回った場合
△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
× : 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
		単位			基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1	周辺地区内で新たに住宅 を着工した数	軒/年	周辺地区(金色、市海道、成田1 区、成田2区、成田4区、成田5 区、成田6区、成田10区、成田11 区、成田12区)の建築確認申請 の数を計測	—	—	18	R1	モニタリング			地区内の道路や駅前広場の整 備等が周知され期待感が高 まっていることを考慮し、本事 業による効果発現状況を計る 指標として取り上げる。	
								事後評価	確定 見込み	● 35		
その他の 数値指標2								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・令和6年9月に実施した二本松駅南地区側を利用する可能性のある地区にお住まいの方を対象としたアンケート調査で、「整備が完了したらあなたのご家族(あなたを含む)は二本松駅南地区を今よりも利用しますか?」の問いに約4割が「今よりも利用する」と回答した。整備は完了していないものの、今後の整備への期待感が高まっている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3－① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
福島県二本松市	予定どおり実施した	—	—
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
—	予定どおり実施した	—	—
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3－② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
駅南・下成田まちづくり協議会の活動支援	予定どおり実施した	● 【実施頻度】年5～6回 【実施時期】令和2年～6年度 【実施結果】駅南地区整備事業について意見交換・勉強会の実施、駅前整備 先進地視察研修の実施、歴史みどころマップ作成・配布、案内看板の設置等	にぎわい創出や南北の連携強化に向け、今 後も継続的な支援を行う。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
—	予定どおり実施した	—	—
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
駅南・下成田まちづくり協議会を組織展開	予定どおり実施した	● 組織運営を協働で行い、多岐にわた る活動が円滑に実施されるよう活動を 支援した。	<駅南・下成田まちづくり協議会> 駅南・下成田のにぎわい創出を目的 に、意見交換や各地への視察、マップ の作成等を行っている。	にぎわい創出に向け、持続的なまちづくり体 制の支援を行う。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
—	予定どおり実施した	—	—	—
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
福島県二本松市	関係各課	令和6年12月	都市計画課

添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標3		指標○		指標○		指標○	
指 標 名		二本松駅南地区イベント数							
種別	事業名・箇所名	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見
基幹事業	【道路】二本松駅～向原上竹線のアクセス道路	△	まちづくり団体等が南北の地区で連携しながら開催場所を工夫してイベントに利用しており、従前値よりも評価値が上がっている。						
	【道路】自由通路 跨線橋	△							
	【道路】造成内道路	◎							
	【公園】造成内公園	○							
	【下水道】二本松駅～向原上竹線のアクセス道路	△							
	【下水道】造成内道路	△							
	【地域生活基盤施設】駅南広場内調整池	△							
	【地域生活基盤施設】造成地内調整池	△							
	【地域生活基盤施設】二本松駅南広場	○							
提案事業	【事業活用調査】立地適正化計画推進事業	△							
	【まちづくり活動推進事業】地元まちづくり協議会PR活動支援	◎							
関連事業	中央跨線橋線(自由通路)	△							
	【上水道事業】二本松駅～向原上竹線のアクセス道路	△							
	【上水道事業】造成内道路	△							
	【下水道事業】二本松駅～向原上竹線のアクセス道路	△							
	【下水道事業】造成内道路	△							

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	2期整備により、駅前空間を活用したイベントの開催を促し、事後評価結果の維持を目指す。				
-------	--	--	--	--	--

添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標○			指標○		
指 標 名		二本松駅南地区の利用状況			安全性に対する満足度								
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	【道路】二本松駅～向原上竹線のアクセス道路	××	利用のメインとなるアクセス道路や駅南広場の整備が完了していないことから効果が発現しなかったと考えられる。	I	××	造成内道路が整備され、狭隘な道路が減少したこと等により、従前値の数値よりも上がっているため効果が発現している。	I						
	【道路】自由通路 跨線橋	××			××								
	【道路】造成内道路	△			△								
	【公園】造成内公園	×			△								
	【下水道】二本松駅～向原上竹線のアクセス道路	—			△								
	【下水道】造成内道路	—			△								
	【地域生活基盤施設】駅南広場内調整池	—			××								
	【地域生活基盤施設】造成地内調整池	—			△								
提案事業	【事業活用調査】立地適正化計画推進事業	△			××								
	【まちづくり活動推進事業】地元まちづくり協議会PR活動支援	△			△								
関連事業	中央跨線橋線(自由通路)	××			××								
	【上水道事業】二本松駅～向原上竹線のアクセス道路	—			△								
	【上水道事業】造成内道路	—			△								
	【下水道事業】二本松駅～向原上竹線のアクセス道路	—			△								
	【下水道事業】造成内道路	—			△								

※目標未達成への影響度

- ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	道路や、自由通路、駅前広場の整備を完了させ、駅南地区への魅力あるまちづくりを推進する。また、近隣住民等に整備の状況を周知することで利用者の増加を目指す。	道路の整備を進め、狭隘道路の解消により交通安全性の向上を図る。同時に、地区内を歩行者が安心して通行できる空間を目指す。		

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5ー① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
福島県二本松市	関係各課	令和6年12月	都市計画課

添付様式5ー② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
①・駅前広場及びアクセス道路の整備		未整備となっている駅前広場及びアクセス道路を整備し、安心して歩ける歩行者空間の確保が必要。また、駅への送迎車により南地区の自由通路付近の道路が混雑していることから、利便性の高い駅前空間の整備が望まれる。	
②車に対応した見通しの良い安全な道路の整備	狭隘な道路が減少し、車での通行の危険性が軽減された。	未整備となっている道路を整備し、車での通行が一層安全な地区を目指す必要がある。	
③防災・防犯に強い住宅地づくり	木造の住宅が密集した場所や狭隘な道路が減少し、災害時等に避難路が塞がれる危険性が軽減された。また、造成地内の調整池が整備され、水害の軽減を図ることができた。	未整備となっている駅南広場内調整池を整備し、水害対策を強化する必要がある。	
④非常時に避難できる場所の整備や指定	造成地内に公園を整備したことから、周辺住民が非常時に避難できる場所を確保した。	狭隘な道路が多く避難できる場所が少なかったことから、駅前広場を整備し、地域住民等が非常時に活用できる場所が必要である。	
⑤賑わいあふれる魅力的な二本松駅南地区の整備が必要	整備への期待感から、まちづくり団体が地区内でイベント等を開催し、人と人の交流が生まれている。	未整備となっている駅前広場や地区内の道路を整備し、気軽に利活用できる空間が必要。また、自由通路を整備することで、南北が一体となったまちづくりの促進が必要である。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5ー③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業

B欄 改 善 策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	南北連携による住民・駅利用者のさらなる利便性の向上（課題①②⑤関連）	・駅前広場を整備し、駅への送迎車による地区内道路の混雑解消を目指す。 ・南地区へアクセスする幹線道路を整備し、歩行者や車の通行の安全性を高め、利便性を向上させる。 ・誰もが利用できる自由通路を整備し、南北地区の交流の活性化を促進する。	・二本松駅～向原上竹線のアクセス道路 ・自由通路 跨線橋 ・二本松駅南広場 他
	魅力的な生活環境の形成による賑わいの創設（課題②⑤関連）	・地区内の狭隘な道路を解消することで、地域住民の生活環境を向上させる。 ・駅前広場や公園、住宅地の一体的な整備を行い、地区内外の交流やにぎわいを促す。	・二本松駅～向原上竹線のアクセス道路 ・二本松駅南広場 他
	災害時等の安全性の確保（課題③④関連）	・防災、防犯として活用できる駅前広場を整備するとともに、広場内調整池を整備することで、地区内の安全性を高める。	・二本松駅南広場 ・駅南広場内調整池 他

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5ー③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。（チェック欄）

☐	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題（都市再生整備計画）を再確認した。
☐	事業の実施過程の評価（添付様式3）を再確認した。
☐	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用（添付様式4ー②）を再確認した。
☐	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針（添付様式4ー③）を再確認した。
☐	残された課題や新たな課題（添付様式5ー②）を再確認した。

添付様式5ー参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5ー④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2ー①、2ー②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2ー①、2ー②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標		単位	従前値		目標値		評価値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度							予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	二本松駅南地区の利用状況	%	28.40	R1	39.80	R6	確定	●	23.50	×	あり	●	→	—	—
							見込み				なし	●			
指標2	安全性に対する満足度	%	41.20	R1	54.20	R6	確定	●	47.10	△	あり	●	→	—	—
							見込み				なし	●			
指標3	二本松駅南地区イベント数	回/年	0	R1	3	R6	確定	●	3	○	あり		→	—	—
							見込み				なし				
指標4							確定				あり		→	—	—
							見込み				なし				
指標5							確定				あり		→	—	—
							見込み				なし				
その他の数値指標1							確定						→	—	—
							見込み								
その他の数値指標2							確定						→	—	—
							見込み								
その他の数値指標3							確定						→	—	—
							見込み								

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	評価値を測定するためのアンケートでは、整備後の利用意向に関する設問を入れることで、今後の利用見込みを把握することができた。また、自由記述を設けることで、具体的な改善案を検討できた。	アンケートは、今回のように、様々な視点での意見を取り入れることが望ましい。
	うまく いかなかった点	なし	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	イベント数は、完了していない事業がある中、数値目標を達成した。駅前広場や自由通路、地区内道路整備への期待感を反映させることができ、事業の効果を示すことができた。	都市再生整備計画の作成時は、モニタリングや事後評価の実施を考慮して指標を設定する必要がある。
	うまく いかなかった点	アンケート調査で測定した安全性に対する満足度は、回答者の主観が入ってしまうことから、達成・未達成の原因を判定しにくい。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	駅南・下成田まちづくり協議会と連携することにより、計画に地域住民の意向を反映することができた。	まちづくり団体との連携は、より地域に密着した意見を取り入れるきっかけとなり効果的である。
	うまく いかなかった点	なし	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	イベント開催数は、計測を続ける事で効果の検証に用いることが可能である。	計測を引き続き行っていくことは、PDCAサイクルの考え方にとって非常に有効である。
	うまく いかなかった点	なし	
その他	うまくいった点	なし	
	うまく いかなかった点	なし	

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

都市再生整備計画二本松駅南地区(第2期)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
福島県二本松市	市のホームページに掲載	令和7年1月6日～1月17日	令和7年1月6日～1月17日	持参、郵送、電話、ファクス、メールにより受け付け	都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布	—	—	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	都市計画課窓口で閲覧	令和7年1月6日～1月17日	令和7年1月6日～1月17日		
住民の意見	意見なし				

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	- 菅野京一(二本松商工会議所会頭) - 市岡綾子(日本大学工学部専任講師) - 伊藤郁子(あだたら商工会女性部) - 三瓶紀之(福島県建築士会安達支部監事) - 川島孝夫(県立二本松実業高等学校校長)※欠席	令和7年1月27日	都市計画課	二本松市都市計画審議会条例	二本松市
その他の委員	- 佐藤運喜(市議会議員・産業建設常任委員長) - 佐久間好夫(市議会議員・産業建設常任副委員長) - 佐藤弘美(一般公募) - 齋藤純子(一般公募)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・特になし
	成果の評価	・指標1の二本松駅南地区の利用状況は達成度が×(未達成)となっているが、アンケートでは従前値と評価値で同じ人に聞いているわけではない点と、事業中である点、様々な要因によるものと考えられるので、一定の評価はできるのではないかと。
	実施過程の評価	・特になし
	効果発現要因の整理	・指標3のイベント数については、地区内が整備中で場所がない中でも実施していることを評価し、南北連携を見越し場所を工夫してイベント実施したと記述すると良い。
	事後評価原案の公表の妥当性	・特になし
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	- 自由通路の整備を進めることで、南北の交流や北側の施設等との一体的な利活用が活発になり、にぎわいの創出につながることを期待する。 - 若者が増えることで、地区内の活性化が期待できることから若者の居住を促進する住宅整備等を提案したい。 - 他自治体では自転車専用レーンを後から整備している例もあることから、後々のことを考慮して歩車道の幅員構成を検討する必要がある。 - 住宅地内の道路に愛称をつける等して愛着の湧くまちづくりが必要である。 - 今後は維持管理なども含め、まちづくり協議会などと協議をしていく必要がある。
	フォローアップ	—
	その他	特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他		特になし

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
—	—	—
—	—	—

有識者の意見	—
--------	---